

【HPにも掲載しておりますので、鮮明な画像もお楽しみください。】



ぎょう がく いち にょ 行学一如

(庄農通信)

第3号 令和7年6月10日発行

山形県立庄内農業高等学校

〒999-7601

山形県鶴岡市藤島字古楯跡 221 番地

TEL 0235(64)2151 文責 酒井

<http://www.shonai-ah.ed.jp>

『校訓「行学一如」の由来』

修業（実行・実践）と修学（学問・研究）は一体であって人格形成には学習と実践のどちらも重要であり、互いに影響し合って発展していくものだという仏教の教え。創立 100 周年を記念して制定。



1 全国高校総合体育大会出場！！

ウエトリティツグ部 2 年生の阿部洸希君が全国高校総合体育大会（8 月 10 日・鳥取県米子市）の出場権を獲得しました。大会当日はこれまで以上に高い集中力を発揮しての勝利。洸希君は、3 年生の布川開二郎君、2 年生の阿部比奈太君とともに東北選手権大会にも出場します。上位大会でのさらなる飛躍を全校挙げて応援しています。

また、今年は 2 人の 1 年生が加わり、県総体の期間中に初めて実戦に臨みました。「庄農の選手は皆フォームが綺麗で、試技前後の礼儀が身についている」と毎回お褒め頂いている通り、2 人とも素晴らしい試技を見せてくれました。



2 めざせ東北高校選手権大会優勝！！

「〇〇が『勝ちたかった!』と言うまでに成長してくれました。本当に上手くなったんですよ。」涙を浮かべながら加藤先生が当日の祝勝会で熱く語れば、「入学してくれた子ども達のことを思うと…」と正人先生が声を詰まらせました。剣道部の県高校総体は東北大会出場権獲得という栄光を忘れてしまっているほどの激闘でした。支えている仲間や家族、OB 会をはじめとする方々、そして指導者のために、「集団の力」をいかに発揮して決勝戦の時間が尽きるまで全力で戦い抜いた選手達は、正しく本校の誇りです。東北大会優勝を掲げ闘い続ける若者に御期待ください。





3 「サーベイコンテスト」最優秀賞獲得！

6月4日に開催されたコンテストで2年生チームが優勝、3年生チームが準優勝しました。また、同日アトラクション競技として実施されたドローン部門でも3年生チームが優勝し、本校は総合優勝を獲得することができました。この大会には農業高校だけでなく工業高校も参加しており、今回の成績はとても誇らしいものです。優勝した2年生チームは測量技術を今春修得し始めたばかり。参加者それぞれ仲間と協力し合って大満足で凱旋を果たしました。おめでとうございます。

4 異文化交流事業が始まりました！

外国人労働者の方々への期待が日に日に高まる中、本県では誰もが働きやすく暮らしやすい地域づくりに向けて、高校ごとに外国人労働者の方々と交流させて頂く機会を年間複数回新設することになりました。早速、6月2日にベトナム出身のアイン様をお招きしてライスパーパー作りをご教授頂く調理交流を実施したところ、とても良い異文化体験機会になったようです。英語科を中心に家庭科や農業科等と連携した農業高校らしい交流事業は今後もまだまだ続きます。



5 地元企業職業説明会を開催！

5月29日、企業や行政の方々20団体をお招きして職業説明会を実施して頂きました。本校は小規模校としての強みを発揮して全校生と希望された保護者の方々が参加。事前に募った希望により4つの団体のブースを回ります。(3年間で12団体からお話しをお聞きできる仕組みです)

全国的に新卒者の3割が採用後3年以内に離職してしまうとも言われる中、積極的に質問するなどとても前向きな様子でした。御協力を賜りました皆様に厚く御礼申し上げます。

6 放課後活動が問われています！

先日、県優勝経験を持つバスケボール部OBの方々からサッカーや相撲など多様な部が活躍していた当時の様子をお聞きし、中学校等で部活動が地域に移行されつつある今、充実した放課後活動を経験できなかった人達は、熱く楽しそうに語り合う先輩方のように豊かに生きていけるのかと心配になってしまいました。本校では音楽部や農業部など多様な放課後活動を今後も精一杯下支えしてまいります。



今後の予定

【 6 月 】

23月 県意見発表会

24木 SC 相談

26木 期末テスト(～30月)

【 7 月 】

2水 SC 相談

4金 漢字検定

5土 農業技術検定

6日 英語検定

7月 県プロデュース発表会

8火 インターネット(～10木)

10木 3年進路ガイダンス

15火 SC 相談

18金 薬物乱用防止講座

22月 終業式

【編集者コラム】・・・人はなぜ挑戦するのでしょうか？・・・

「若いうちにたくさん困難を経験した方がいい」と言う方もいれば、「子ども達には辛い想いをさせたくない」と言う方もいます。簡単に答えは見つかりません。私も子育て中(今でも?)子ども達の挑戦を応援し、困難や不安を傍で見えてきました。あれやこれや助言しようにも言葉が見つからず、一緒に泣いてあげるしかなかったように思われますが、それで良かったのかもしれない。挑戦に失敗しても必ず仲間や支援者が残ります。挑戦しなければその尊い財産は手に入らない。それを伝えるのが大人の役目です。